

## 第2章 地域の課題解決に向けた取り組み

### I 安全と安心のまちづくりを進めましょう

県民のくらしや社会活動においては、安全と安心の確保が大前提となります。

震災の教訓を踏まえ、県民は自助の意識をもつとともに、災害や犯罪、さらにくらしを脅かすあらゆる危機に対応できる知識、体制などを地域で共有することが求められています。

日常の地域活動が、災害、犯罪発生時の助け合いなどにつながることから、県民、企業、NPO、関係団体が普段から地域のつながりを深めていくことが大切です。

安全と安心のまちづくり、特に、災害に強く、犯罪のないまちづくりに向けて、県民の自発的かつ自律的な地域づくりを進めましょう。

#### 1 地域の結びつきを強めましょう

県民は、災害や犯罪などの被害を防ぐため、自助の意識をもちつつ、企業、NPO、関係団体などの地域組織との連携を進め、防災・防犯の地域活動などに取り組みましょう。

##### ○被害を防ぐための意識を共有しましょう

- ・「自分たちのまちは自分たちで守る」「地域の安全は地域が自ら守る」意識を共有しましょう。

##### ○地域にある資源を知り、活用しましょう

- ・地域の人材、組織、施設などの社会資源を知り、その活用を図りましょう。

##### ○地域組織の連携や一体化を進めましょう

- ・日常の地域の活動が災害や犯罪発生時の助け合いなどにつながることから、普段から地域の間人同士をつなぐを深めて、防災、防犯のための様々な地域組織との連携や一体化を進めましょう。

##### ○防災・防犯の地域活動に取り組みましょう

- ・自主防災組織やまちづくり防犯グループを地域で育成し、地域の力で安全で安心に暮らせるよう様々な活動に取り組みましょう。
- ・小学校単位の防災訓練をはじめ、小学校区での子どもの見守り活動を行いましょ。
- ・高齢者などの社会的弱者の見守り活動や、悪質商法などの被害防止のための声かけ運動などを行いましょ。



大原・桂木ふれあいのまちづくり協議会の地域緊急会議



福吉台防災福祉コミュニティの放水訓練

## 2 防災・防犯情報などの入手・発信・共有体制を整えましょう

### ○情報の入手・発信・共有のネットワーク化を図りましょう

- ・地域では、正確な情報を迅速に入手し、地域の人に迅速に伝えましょう。また、そのための体制を地域で整えましょう。
- ・地域では、県民、行政、企業、NPO、関係機関などとの連携を強め、情報の共有化を図りましょう。
- ・情報を正確、迅速に共有するため、情報のIT化を図りましょう。
- ・洪水危険情報などの災害情報を正確、迅速に伝えたり、避難する体制などを地域で整えましょう。

### ○災害時要援護者の安全確保と情報収集などに努めましょう

- ・高齢者や障害児（者）、外国人など、災害時要援護者の安全確保と情報収集・伝達を迅速に行う体制を整えましょう。

### ○防犯情報の共有を進めましょう

- ・普段から身の回りの危険を知り、事前の備えや早期の避難などに役立てるよう、リスクに関する情報を関係者が共有し、意思疎通を図りましょう。
- ・高齢者にも分かりやすいように、大きな文字、図、絵、写真などを使ったパンフレット、ポスター、ビデオなどを活用して、高齢者の防犯意識を啓発しましょう。
- ・子どもたち自身が「防犯」について理解するよう、子どもたちの視点を活かした地域の「安全マップ」をつくりましょう。

## 3 地域と学校の連携を図りましょう

### ○防災訓練などを地域で行いましょう

- ・地域と学校が連携し、小中学校において防災教育を推進し、学校単位の防災訓練を行いましょう。特に、実戦的な防災訓練や防災活動を行いましょう。



### ○子どもを健全に育てましょう

- ・有害環境を改善し、家庭、学校、地域社会がスクラムを組んで、子どもを健全に育てましょう。

## 4 組織のリーダーを養成しましょう

### ○リーダーを養成しましょう

- ・地域の防災、防犯組織が効果的な活動ができるよう、組織の中核を担うリーダーを地域で養成しましょう。

○地域の人材を活用しましょう

- ・地域の人材を発掘し、地域の一員として活動にかかわってもらいましょう。

○リーダーなどの継続性を保ちましょう

- ・組織の活性化は、代表のリーダーシップによるところが大きいことから、リーダーをはじめ、中心メンバーの継続性が保てるようにしましょう。

5 防災、防犯をはじめ、くらしの危機管理意識を高めましょう

- 普段から、くらしを脅かす「危険」について、危機管理の意識をもって研究し、自己研鑽に努めましょう。



生田防犯協会生田前支部による防犯の呼びかけ